水府志料附録

茨城郡二

八

和書門 類 三三四五九號 一七一函 一架 五七冊

内閣文庫 和書 類 三三四五九號 五七冊 一三架 一七四函

内閣文庫
番號 和 36459
冊數 73 (24)
函號 174 325

綴じ部（喉部分）の文字など開きが不鮮明な箇所あり

国立公文書館
National Archives of Japan

水府志料附録

茨城郡

国立公文書館
National Archives of Japan

水府志料附録卷之八

茨城郡二

茨城國造

常陸國進歌

茨城郡若舍人部廣足

信太郡物部道足

茨城郡占部小龍

久慈郡丸子部佐壯

那賀郡大舍人部千文

占部廣方

倭文部可良麻呂

吉田明神

吉田庄

塩籠庄

吉田藥師

神先寺

蒜間江

五部造

大庭造

坂戸造

天物部

當麻物部　鹿島郡

馬見物部　信太郡

久米物部　久慈郡

大豆物部　茨城郡

播磨物部　鹿島郡

赤尾関満徳寺

酒戸宮

酒門明神

酒戸瓔洛寺

石川圓照寺
大野極樂橋
隨分附
木葉下
中妻三十三郷
小幡法圓寺
主玉神社
上入野小松寺
那珂西宝幢院
高久城

笠間城
六郷兵庫頭
雨谷
大山
生井澤
下吉影
小堤
小川今泉氏
中山問答

奈爾波都爾美布禰於呂須惠夜蘇加奴伎伊麻波
（ナニハツニミフネオロスエヤソカヌキイマハ）
許伎奴等伊毋爾都氣許曽
（コキヌトイモニツケコソ）
佐伎牟理爾多々牟佐和伎爾伊弊能伊毛何奈流
（サキモリニタヽムサワキニイヘノイモカナル）
敝伎己等乎伊波須伎奴可毋
（ヘキコトヲイハスキヌカモ）

右二首茨城郡若舍人部廣足

於之弖流夜奈爾波能津與利布奈與曽比阿例波
（オシテルヤナニハノツヨリフナヨソヒアレハ）
許伎奴等伊毋爾都岐許曽
（コキヌトイモニツキコソ）

比多知散思由可年加里母我阿我古比乎志留志
（ヒタチサシユカムヤリモアアコヒヲシルシ）
豆都祁豆伊母爾志良世牟
（テツケテイモニシラセム）

右二首信太郡物部道足

阿我母豆能和須例母之太波都久波尼乎布利佐
（アカモテノワスレモシタハツクハ子ヲフリサ）
氣美都々伊母波之奴波豆
（クミツ、イモハシヌハ子）

右一首茨城郡占部小龍

久自我波々佐氣久阿利麻豆志富夫禰爾麻可知
（クシカハ、サキクアリマテシホフ子ニマカチ）
之自奴伎和波可敝里許年
（シ、ヌキワハカヘリコム）

右一首久慈郡丸子部佐壯

都久波禰乃佐由流能波奈能曲等許爾母奈之
（ツクハ子ノサユルノハナノユトコニモナシ）
家伊母曽此留毛可奈之祁
（ケイモソヒルモカナシケ）

阿良例布理可志麻能可美乎伊能利都；須米良
（アラレフリカシマノカミヲイノリツ、スメラ）
美久佐爾和例波伎爾之乎
（ミクサニワレハキニシヲ）

右二首那賀郡上丁大舍人部千文

タチハナノシタフクカゼノカヒコスアラメヤコヒスアラノカモ
多知波奈乃之多布久可是乃可具波志伎都久波
能夜麻乎古比須安良米可毛

右一首助丁占部廣方

アシカラノミサカタマハリカヘリミスアレハ
阿志加良能美佐可多麻波理可閉理美須阿例波
クエユクアラシヲモタシヤハハヤルフハノセ
久江由久阿良志乎母多志夜波婆可流不破乃世
キクエテワハユクムマノツメツクシノサキニ
伎久江豆和波由久牟麻能都米都久志能佐伎爾
チマリヰテアレハイハムモロモロハサケク
知麻利為豆阿例波伊波々牟母呂母呂波佐祁久
トマヲスカヘリクマテニ
等麻乎須可閉利久麻豆爾

右一首倭文部可良麿

二月十四日常陸國部領防人使大目正七位上
息長真人國島進歌数十七首但拙劣歌者不取
載之

萬葉集巻二十

異文作文

茨城國造（ムバラキノ）

應神
軽島豊明朝御世天津彦根命（アマツヒコノ）孫筑紫刀禰（トチノ）定賜國造

右舊事紀

神代上巻云天津彦根命此茨城國造額田部連等遠祖也　山田廣足カ講述抄ニ師説延佳云直指抄并ニ纂疏ニ茨城ヲ薩ナトナスハ誤也常陸ノ郡名ナリ

彼國ニ額田部氏アリ

南狙

第三ノ字

一吉田大明神

ノ地ニ鎮座ス下吉田村

社　言ヒ名ヲ弥勝手ト称ス拝者無シ

水門　言ヒ名ヲ芦萱ト言フ

表ヨリ武ニ入ル

妻ニ入ル

芦萱ノ

若藤ノ

同

獨松離表ニ入ル

妻七百

拜殿 長六百 横三百 日
神饌室 長四百 横三百 日
神輿舎 長四百 横三百 日
仮馬門 高一丈四尺 妻長一丈四尺 日
橋 長一丈四尺 武尺七寸 妻長一丈四尺 横八尺四寸
假橋 長一丈四尺 横武尺四寸
下 高一丈武尺 高一丈四尺 横一丈四尺四寸 横武尺七寸

末社 高四尺三寸 四尺武寸 三尺八寸
國見社 高四尺三寸 表武尺 書三尺八寸 板葺
四家

新假 社
水戸 社

看督長二社 高八尺 四尺武寸 四方 苫葺
玉神社 長四尺九寸 表武尺 妻三尺六寸 板葺
高一尺アリ
手水場 長一丈武寸 横三尺三寸 苫葺

既　九天四方
宝殿　長三百棟許
朱雀如言
社領許合四千四百余束
引付
田拾四石九斗壱束弐把
外　畠拾石四斗壱束
拾石四斗壱束　附宝永四年貢米
城内仮屋より下ハ
上町　旅
田不修理
一八幡社神体弥陀像
元禄六年酉ノ年ニ引寄
仮屋地除ク
四拾弐石四斗
ノ朱雀如言三百石
社領三百九拾石六斗
常騰ノ村ヨリ山手行キ
南宮院
一牛頭天王社神体鉄鉢
社領弐斗
一三宝荒神神体
社領三石弐斗七升
下町七百町
千種政要

吉田庄

建暦二年六月十五日常陸國吉田庄地下沙汰人等盜妨本所ニ務且任去文治二年閏七月廿五日故右大將御下知為関東御沙汰可被付彼下地於本所之旨訴申之間為廣元朝臣奉行有評議謂文治御下文者可有計成敗之間就被下院宣御沙汰訖今度無其儀也且非地頭輩事以本所沙汰人等盜吹事無左右難尊御裁許之由治定仍今日載其趣被出御返事云々

東鑑巻二十

塩籠庄

元仁二年九月十二日 故大夫判官光秀遺領事有
其沙汰彼子息四郎秀村等拝領之常陸國塩籠庄
元和田平太知行之云〻 脱漏

吉田藥師

大永七今上皇帝号後奈良院 六月十二吉田寺藥師堂焼失
右和光院蔵和漢合運

神先寺勧進疏

勧進沙門敬白

特請蒙二十方旦越御助成一於常州吉田郡常葉郷

神先寺再造一宇本堂上子細之疏

秀按監觴
宜作盪觴

夫以、、、

右當寺者草創年旹未詳其監觴再造日新未能彼

成立抑本尊者海岸孤絶舩師九品蓮臺補處又奉

拜脇侍貴哉花蔵界雖主君観音殿為補翼、、

常山為景委風掛琴如弾絃聞者覚生死夢湖水宿

月深自海見者澄煩悩渾顧厥左右曠野隣次箕川

簸盪糟留米粒奇岩連綿近里現明神生笠原誠本
尊相應地垂跡無雙景(すり)ゝ
仰願吉田笠原明神微塵消露雖酌野酌成大功如
福田並藏ゝ
仍勸進趣蓋以如斯矣
享禄二年己丑 十月 日惠範六十八疏
右心車集

吉田郡蒜間江

将門記曰以天慶三年正月中旬為討遣敵等帯五
千之兵發向於常陸國也于時奈何久慈一両郡之藤
氏等相迎於堺饗美而大饗新皇勅曰藤氏等可指
申掾貞盛幷為憲等之所在于時藤氏等奏曰如聞
其身如浮雲飛去飛来宿處不定也奏訖爰猶相尋
之間漸隔一旬僅吉田郡蒜(ヒル)間之江邊拘得掾貞盛
源扶之妻ゝ

五部造

續事紀ニ五部造為伴テ天物部ヲ率領テ天降ヲシラレトミユ

大庭造　常陸國茨城郡ニ大場ノ邑アリ

坂戸造　常陸國新治郡ニ坂門郷アリ

天物部等二十五部ノ一ナリ

當麻物部　常陸國鹿島郡ニ當間（タヘマノ）邑アリ又按當麻（タヘマ）ハ當鹿（カノ）ノ字誤レルモシルヘカラス常陸行方郡ニ當鹿（タヘカノ）郷アリ

馬見（マミ）物部　常陸國信太郡ニ馬見山（マミ）ト云モノ今アリ

久米（クメノ）物部　久慈郡ニ久米ノ邑アリ

大豆（オホツ）物部

播磨ノ物部

古史通

茨城郡ニ大津郷アリ

鹿島郡播磨郷アリ

秀按開疑関

那河西ノ郡鯉淵郷赤尾開村満徳寺薬師堂再奥之疏

右恵範之草也惜哉焼失

右心車集巻尾

酒戸宮

名所ヲ記タル書ニ酒戸宮何ノ地ナルヿヲ不知ト見土人相傳フ市ヨリ酒戸ニ通スル　クラシナハテト云中コロニ石ヲ三枚ナラヘタル橋アリ是ハ天下ニ聞タル橋ナリトテフ何ノユエンナルヿヲ不知今按スルニ酒戸ノ宮ノコトナルヘシ名所ヲ取失シ橋ナリトテフナラハシタヤラン酒戸ノ宮光俊ノ歌ニ　浅マシヤ酒戸ノ宮ノカリミヤノアヤメ乱テサテモ打ナン　往年風ト心付テ是ヲ尋ルニ善重寺ヨリ十町許ノ林中ニ古池アリ其傍ニ酒戸明神ト云祠アリ古面数枚ヲ蔵ス酒戸國志ニ酒門

秀按ニ鹿島文書ニ坂ノ村坂ノ宮坂ノ神主ナドニテ見エタリ今麻
島郡ニ坂ノ村アリ若クハ其ラナラン

原南陽

敬白

勸進比丘某甲

特請蒙十方檀那助成再造常及茨城郡
酒門大明神寶殿致國家安全貎棟子細
之狀

龔呂迷盧峰于雲堆於一嵕滄溟浸空深於一
滴剎那遠為祇劫一念廣宜三世誰敢拖願望
乎

抑酒門大明神者尋厥本地救世大士雜染六
趣化主崇其垂迹利生靈神水戸七社貫首草

創歲舊社司共記文不知何聖運傳聞中比
平城天皇御宇大同年中依勅願再建給叢祠
也云云仝間鳳凰磨珠玉稚魏、驚目魚軒鍒金
銀湯〻消肝擡杉森〻莊芳郁松栢操〻囲瑞
籬景趣無雙麗粧絶類哉雖然暑往寒来而漸
〻零落為厥躰瓦鴛飛散入江湖懸魚踊去沉
澤畔霊木折倒無跡几芥茂生蔽逢粤弟子等
恭禱天長朝〻致詰黍擔地久暮〻運歩嗚呼
庸哉向懇危寶殿者哩〻而猥法施拜顕露金
鏡者憤〻而忘擔祈只悲者再營乍含胸臆空
鉢而不覃筋力修補乍起念慮弊衣而難辨資
糧徒送歳月虚過時日倩案物意舩舫借風勢
馳千里海路蚊虻附鵬翼翔万丈空裡不如利
生杓柄長酌甲乙慈海遂使捧一札勧疏任縁
城邑村里或時〻公門踈偃揚勧冊首題或時
扣民戸跋扈詢奉加来由千金猶莫為重悲願
海廣故半文恃不為軽精誠山高故希羨貴賤
同情而投寸絹尺布貧富合力而施一紙半銭
給者再興不日成金殿復大同古粧嚴願速疾
満而玉樓秀寛永令匠若尓者國家無為擐三

災七難愁鄉村豐饒而樂五雨十風祐助力貴賤同志道俗龜鶴壽福傳子々孫々椿桃榮花尊菜々代々乃至亟旅樓平等鐵囲仍而勸進執行趣如件

寛永八年辛未今月今日

勸進比丘敬白

吉田郡酒户鄉瓔珞寺再興之疏

右惠範之草也惜哉燒失

右心車集後

石川村圓照寺勸疏

特請蒙十方擅越之扶助於常州恒冨鄉石川村圓照寺再造一宇伽藍子細之状

夫以、、、

抑當寺為莊村是重而清為名寺則盈遍為額、、、

仰願斗子姫大明神本地垂迹如影與光、、、

大永七丁卯八月日

同寺勧疏

夫以〳〵

粤討(タヅヌル)當寺之藍觴者昔　桓武天王爲御勅願國、
被下宣旨於每郡每鄉各建十處之伽藍給當寺者
恒(ツネニ)冨(トミ)十箇之厥一寺(ヲヲテヒトツノテラトス)云
〳〵

大永七年八月日

大野鄉極樂檜勧進疏

特欲蒙(カウムラ)貴賤扶助(タスケヲ)於(ニ)常州吉田郡大野鄉再中造極
樂檜(上)子(下)細状

夫以〳〵

粤有一衢之檜道其名假鵝王之都亭其處卜馬臺
聚落誠夫南北量連五間思惟曩駈(ムカシ)摩(フリシカス)石(ナラシツ)東西廣窮
六尺正覚今親勧名〳〵

仍勧縁之趣在斯

〳〵

事蹟稾纂ノ書ヌキ

隨分附

茨城郡ナムサツケ村アリ隨分附村トカク

石川氏云隨分附何ノ義ニテナムサツケトヨムト云フ昔塙撿校ヨリ御史館ヘ伺ハシレシコアリシニ其時ノ答ニ隨分ヲナムサトヨムハ朗詠集ニ隨分トカキテナフサトヨミシコアリサレハモトハナフサツケと云ヒケンヲ後ニ訛リシト思ハル又分附ト云フハ昔ハ長子ニハソノ山ヲ譲ラン次子トハイツレノ山ヲアタヘンナト要ヲワカツヲ分附（フシツケ）山ト云コノ山モ何某カ分附サルニ

今案朗詠集ノ詩ハ白樂天

隨分(ナフサン)管絃還自足(ナホサリ)閑篇詠被人知

註ニ

又白詩選ヲ見シニ(ナホサリ)閑栽樹木隨分(ナフサン)占風煙ト云句モアリキ

契中和字正濫ニ隨分(ナフサン)ノ二字ヲナツサ(ナツサ)クトヨミテ白氏文集ニアリト記セリ朗詠集ニ引タル出處ニ同シケレ也隨分(ナフサン)トヨミタルハ隨分(ナツサ)ト訓セシヲ誤リ寫セシニハアラスヤ白氏ハ本ナレハ也

木葉下

木葉下ハ葉木下トカキタルカ後ニ轉セルカ葉木下ニヤ葉(ヤボク)ヤ葉(ヤア)ト横音通ズシカレトモ臆斷ノ説トルニハタラス

先ヲ法ヲ下ヲ亦ヲ
出方建ヲ入ヲ如ヲ
ヲ格ヲ

一本ニ一枝剪ヲ折ヲ如ヲ之ヲ柳ヲ
代ヲノ花ヲ遠ヲ近ヲ等ヲ條ヲ
ヲ亦ヲ不ハ那ヲ

一本葉下ニ(ナホサリ)閑栽樹木隨分(ナフサン)占風煙ト云句モアリキ
古キ水枝ヲ枯レ木ヲ枝ヲ
考ヘ之ヲ葉木下ヲ誤リ寫シ如ヲ一ハ按ニ

一昨年以来の事業を
のそれに多くを
るをよしとして
ト云ふを
ト四年ことそれ
をも増すナムサ仕
ゐれたるを
考へかかれ
ゐる

一思ひ切ったる奥羽の
ますをよしを
「トイフ」を及ーストチフと
ことものこと
一ものも
年前後の
十年前後の事業
の程度を
基ゐる事の

村の神主を招き通一住持を
招くことを主とし神主を
住ませることを禁ず
一廿八社の氏子 従来国役を勤
ふべき筈にて寺社へ
一ケ寺集入ることを禁ず
神の社務をつとめ考
一寺社便覧に水戸七社の内酒門明
疑ひ無き村社神社に
下さるべく候 仍て件の
八月廿七日

次官 殿

水戸藩
庶務掛

中妻三十二ヵ

大号　他種急　かぶ野
飯台　川和台　杉崎
小林　二尾　五平
牛伏　是政　大橋
三里塚　又張　鍋屋
松本　岩松押切　中沼台
岩ヶ谷ヶ谷永久ヶ谷ヶ谷
三月
文化十四丑
岡野荘兵衛

大号　金次　方賀
飯台　籠地　毒尾関
小林　二尾　五平
牛伏　是政　中原
三里塚　二ツ塚　田端
松本　岩松押切　飯台大郎

法圓寺舊記云抑當山ハアタゴ權現ヲ勸請シ奉ルナハ從三位中將源顯信公山門
常樂院定源阿闍梨ヲ崇敬マシ〳〵テ担戒ヲ交深シ曆應二年卯五月顯信陸
奥守ニ任セラレテ下向シ給フ時將軍渡身ノ神体ヲ定源ヨリ頒ラレケル是ハ山門ノ座主
慈念僧正天慶三年ヲ二月愛宕山ノ神木ノ枝ヲ以テ彫刻シテ奉ラシ玉ヒシ靈木ニテ
賜ラレケレハ忽大功ヲアラハシ又山門ニ納玉給ヒシカルニムカシノ吉瑞ナレハトテ賜ラレケルトナリ愛ニ南海ノ軍船多ク暴風ニ
漂泊セラレ行カタモシレサリケルカ顯信ノ船ハカリ悉ク南國鹿島ニ着又
大掾高幹三千余騎ヲ率テコレヲムカフルトキ當寺ニ止宿シ給ヒテ云々

事蹟雜纂十三

於小幡村多賀郡
高二百五拾九石弐斗壱升
明ニ右外新開
傳今境内
東西凡壱町
南北凡壱町

寛永九年

四月二日

秋田河内守

法泉寺

為菩提

建之

主玉神社

天津國玉神ノ子天稚彦ノ
ル神也トミエタリサラハ神名式ニミエシ常陸
國茨城郡主玉神社ト云モノ或此神ヲ祭ル所ナ
ルニヤ

天國玉神ハ天書ニハ天ニメ玉ヲ掌レ

古史通

白雲山縁起

上入駒村
小松寺

小松寺蔵

皆當山来由之支 寛初開基
王世八十代 高倉院帝之御宇
平相國清盛公嫡男小松
内大臣重盛大君治承三年六
月有御願而 紀伊熊野山御
冬籠御落髪改法名證空諸國
御願寺建立有命于時同年八
月朔日内府公薨即年北方相

應院殿禪尼得律並御一族肥
後守平貞能俱従臣之而入當
國維時水陽大守大椽官九代
多氣太郎宦府主掊左近衛將
監平義幹君代也一寺開創之
地除附喬小松房御
成貞能薙髮得度号小松房御
遺骨山頂故墳常田心向供之
時又大椽官義幹君次男當鄉
支補掊主保領主之當主盛昌
法師卜改名當寺二世之住嗣
之大椽氏支補掊主老隱出家
世々依為院務而唱連枝寺諸
國小松寺之中紀伊尾張常刕
三箇之道場者小松内府公御
遺骨以藏三國而絶頂、五輪塔

営之半腹相應院殿兼貞能之石
塔在于今時鎌倉大樹公有御
黒印佛供料盤場為修理免五
箇邑里之地有御奇附水府君
大掾官主須広家大閤以御一
門之縁而諸郷之内貳千石祈
願料為修覆免而御除地附賜
之畢依前證御歴代將軍家御
印紙寺領不關
王世百二代稱光院帝之應
永七五年戊春水府江氏但
馬守道勝君御代佛領減之仝
四年之祈願御城殿修法登城
之由者川根十二ヶ寺開場法脉
依祖流而有
當寺立来中着唐門兩唐破風

小松内府公以御廟寺之謂猶
大閤清盛公有御願而古今寺
中ニ立来由一山之規格奉記畢
當寺寂初小松坊開基以来貳
百十三年之間無本寺
當山再開場法脉傳法始祖
王世百一代　後小松院帝之
御字至徳三年丙寅宥尊上人
開場密乗法脉始祖嫡脉川根
十二箇寺開基之祖流也

上那珂西村

真言宗醍醐山報恩院末寺

宝憧院

缺化

寺伝

寺内

朱印先高拾石

高三拾石六升壱斗四合

内弐拾三石七升壱斗四合

七石五升四斗

大猷院様御朱印一通以載仕候

寺建立之時代應安二己酉開山上看阿闍梨法印佛法相續至當寛文三癸卯年或百九拾六年

此開基上看阿闍梨伊豆國般若院看祥大法付弟

看雑阿闍梨之上足為弟子當國依多密法奥起石

塚村之薬師柚丹精祈佛法奥隆勒夕行朝依

是於庭中開伽井欲沈浴身垢穢汲冷水而忽見黄

金吳志永故投捨彼黄金不乱信心重而後建立當時

宝憧院山号名宗山自捕号上看阿依有石号思儀

感應便能詮之本水約所詮之文字得二名号寺

院二号若宝憧二字佐久山看雑當國依建一院伊豆國

般若院法看祥大徳之四流幢幡余上看當山建立後任古
例依看雖給件幢幡依古号宝幢院宝数二宗依幢幡
佛法在教故上弘令名宝数寺右之三号各東寺二ノ
長者前大僧正寛朝額師弟依開基上看之付嘱ノ
弟子看當法印當寺二代目ノ院主此師ノ歩ヲ拾載ノ
客僧或人已上拾四人之有弟子互時開十三ヶ寺忌院共
各ゝ拾四ヶ寺移置佛法附属等法流者醍醐山小野
方六流之付弟子敷之流也此寺流指深吳宝
一佛筆之不動二幅一玉塔二基舎利納筥一壁天像
一幅一鋪出来迦像一幅一玉幅一幅
所心ニ鋪ヲ大日経疏廿巻筆一者不分明已上六程佛
寺未門法或拾弐ヶ祖師元果
三百人法ゝ
高城九ヶ寺所服坊一ヶ所百性檀那
右開基帳之字

高久城

天文三　古内ゝ一切経七千蔵大光禅師請来依大乱移
高久城ノ落城ノ節悉焼失

右和光院蔵和漢合運

笠間城主

常陸國誌曰笠間盛朝十五世孫曰休心休心世服
役北條氏天正十八年豊閑白滅北條氏定閑東地
笠間氏坐黨國除是歳蒲生氏郷封於笠間地居十
一歳慶長六年辛丑 台室改封蒲生氏於會津地
秀按此條土人ノ口碑ニ傳ヱシモノニ據リ記
サレシナルヘシ氏郷ニハ封セラレシニハ非ス
其子秀行ノ宇都宮ニ封セラレシ時ニ其臣蒲
生源左衛門ヲ置シナリ口碑ニハ蒲生殿トノ
ミ傳ヱシヲ氏郷ノ事トオモヒシナルヘシ其

證書左ノ如シ休心モ北越軍談ニ笠間長門守
幹細後歸休心齋トアリ是モ口碑ニ傳ヱタル
ヲ記メ考ヱ未タ詳ナラサリシト見ヱタルナ
リ

古今城主記曰天正十八年秀吉以奥州十七郡
封于氏郷百万石文禄四年二月七日卒于京師春秋
四十其子号秀行慶長四年移宇都宮賜三十萬石
慶長六年移會津

事跡雜纂ニ菅俊仍ヵ日本城主記曰笠間城大閤時ハ蒲生秀行宇都宮
ニ在城依之家老浦生源左衛門笠間ニ在之ヲ此城ヲ取立タルナリ水戸ノオ
サヱナリ関ヶ原以後松平周防守在城ナリ

二郷之庫設無象設置

慶長年中ニ

攻落ス

按ニ按慶長大坂ノ役ノ地ヲ称ス食邑ヲ称ス

如是陸ノ字存中ノ地ヲ移ル云

事蹟雜纂ニ菅俊仍ヵ日本城主記ニ存中ハ皆川山城守其後六郷
兵庫頭在城イタシ今ハ古城ナリ

雨谷村吉左衛門話

吉左衛門ハ岩瀬氏先祖利左衛門ハ宍戸實季ヨリ六十石ヲ授ル古文書家蔵ス

上雨谷村ニ長者屋敷アリ藤枝長門ナルモノ、居所ト云フ

大戸村ノ雨谷氏ハ昔雨谷ニ居リシ、中ハ他姓ナリ大戸ニ移シヨリ雨谷氏ヲ稱ス

上雨谷法忍寺 天台 小幡村法圓寺ノ門中ナリ

下雨谷圓壽院 天台 鳥羽田圓福寺ノ末寺

上雨谷帝王(テイオウ)明神 十一月廿五日祭 別當法忍寺 下皆同

一子宛明神　同
愛深明王　同
鷲権現　同是迄一坪
雨土(アメツチ)明神　九月十九日祭
高房明神　九月十五日祭
坪〻三ヶ所ニ分ル

於海右衛門
六拾石ニ而売
り条全て

茨城郡雨谷村
古老ノ家蔵

公務ニ付

佐竹
大山御系図之内
大山
五代目 周幡守義成
妻ハ江戸但馬入道道勝女トアリ

佐竹御本家系ニ
十七代 義舜公ノ女江戸但馬守藤原忠道ニ嫁ト
アリ

生米漆拾石之内
一 弐拾石 御扶持米
内 三斗三升ハ
日別 弐合ツヽ
日数 百六拾八日分
一 百六拾石 御飼米
内 九拾七石ハ
日別 壱升ツヽ
日数 百六拾八日分
一 五拾三石 御飼米
内 弐石ハ
日別 壱升ツヽ
日数 弐拾日分
一 弐石 御飼米
日別 壱升ツヽ
日数 弐日分

右之通相違無御座候 以上

田島順輔 印
永井 印
子ノ四月
日付無之

来ル拾五日
永井要人
御役宅

右之通相違無御座候 以上

佐竹
御役人

一

一佐竹左近将監殿秋田へ入部ニ付
小揚ニ而御小休被仰付候ニ付
其節御供仕候御小姓衆
御小休之儀ハ不及申上候哉
御供之面々ハ横手ニ而
御小休被仰付候哉
右之儀ハ不及申上候哉
右之通ニ候ハヽ
御小休被仰付候ハヽ

秀拙ニ正保頃カ

中七人ハ同年ヨリ始メテ士ノ称ヲ廃シ百姓ト称スル事ニ改メ
ラレ候間其旨相心得ベキ事
但シ苗字ハ従来ノ通リ名乗リ候事ト存ジ候事
一 高百石ニ付キ人馬一疋ヲ宛テ出シ候事
一 家宅高ヲ以テ高面高ノ百分ノ一ヲ宛テ出シ候事
一 高ヲ以テ高百石ニ付キ日傭ヲ以テ高面ノ百分ノ一ヲ宛テ出シ
高ヲ以テ高百石ニ付キ日傭ヲ以テ高面ノ百分ノ一ヲ宛テ出シ
移リ一年ニ十日ヲ限リ勤ムベキ事
但在国院文ハ甲ノ文永二癸丑ノ中之二年ヨリ
仁皇百七代四条院永仁元甲午ノ永禄六年ニ至ル
二百年ニ

大鹿ノ不動ハ社ヲ村ノ社ト称シ不動ト
年ニ年ヲ不動郷ト称シ鹿島ト相対シ祭礼ヲ行フ事ヲ

小姓村

先祖ノ傳ヲ書附ル事

一西村ト云ハ先年ハ中嶋ト申候ヲ信玄中ツヽヲ以テ
能登守様ヨリ西村ト御改名被成候ヲ
初テ我ラ共ニ被下候ト申伝候

秀松の宅へ
小宅カ

神谷村金剛院ヲ以テ平村ノ内ニ引移シ
ト申渡候ニ付テハ右ノ通リ寺地ヲ引渡シ
申ス可キ筈ニ候処村方ニ而ハ古来ヨリ
両村ノ境ニ有之候ト申シ立テ右
ノ通リニ引渡シ不申候ニ付テハ
ヲ以テ申渡シ候ニ付テハ
常陸国鹿島郡但信控行
奉納法花大曼荼羅
三十番神
八幡大菩薩
右ハ当寺開基勧其宗ノ歳来ノ
元亀三癸亥年ヨリ今日今
年ヨリ、八月廿八日、

書付指上ケ申候事

一小堤村時宗通照山極楽寺ト申
元亀三癸亥年極楽寺仏上人開山被ノ
開基勧其宗ノ歳来ノ別時ヲ以テ
七日七夜法ヲ修行ノ年中ノ勤行ノ
自筆ヲ以テ今ニ所持建立ノ年号文ヲ
ニ寸五分ニ寸五分ノ厚板ニ
寺院敷指ノ寸ノ
一殿様ヨリ御寺ヲ
ノ仕合ニ候ヘハ

奉拝啓

寛文三年卯ノ九月吉　　佐野覚右

一宝暦元年新吊高村喜六三春と号す
小姓氏と一字ゟ而ゟ俗ゟ而ゟ
あゟ喜六三春と号ける
五ゟまゟ左様ゆゟ一切ゟ
而ゟ俗ゟ而ゟ一切ゟ
ゟ高村生而ゟ
ゟ

右八箇村惣百姓久左衛門
当八箇村之内共代官所
国家ニおゐて当八箇村之内
候処当年十三年ニ
彩色ニおゐて
当八箇村ニ
候ニ付

右之通相違無御座候ハゝ
御運上御役所様ニ
無之候ハゝ

年号書之事
為ニ
為ニ

文化十三年
子六月

小川村
庄左衛門

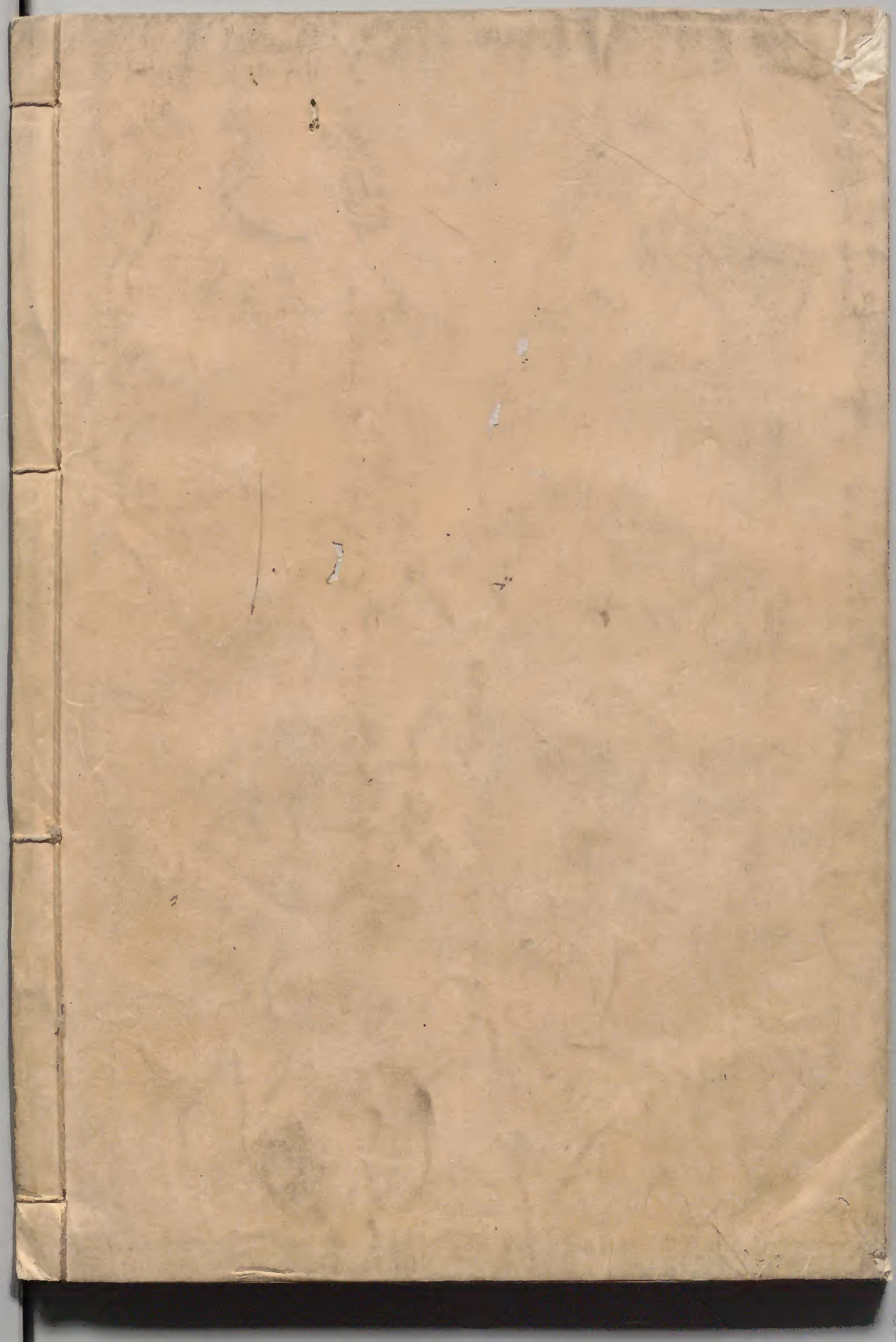
中山平四郎 明治廿

一 神宿ヲ小栗氏ノ宅地アリト云ヒ伝フ
ヨリ云ヒ始メテ小栗氏ノ宅地アリト云ヒ伝フ
小栗竹葉ト中ノ古クヨリ古ク云ヒ伝フ
トスル説ヲ聞カズ

古墳ナドモアリ多田ノ小栗ト同族ト見ユ名ノミカラズ土人
ハ小栗姓ヲ称ノ下ノミ附会メク傳ナシ

一主人神社ハ大和田村ニアリ此地ハ種金ノ称号ヲ称ス
訪ヒ居ルニ迎若武ヲ称ス

一 越後ノ郷名ノ内ニ白川田篭（タゴ）ナドアリ 又ノ所ニ
モ 地名ニ佛寺ノ山等ナドニモノコリ在ルヨシニ
新潟県ニ在ル村名ニ類似ノ地 田子（ダコ）関係アリ 皆似タリシモ
今尚ホ

一 越後ノ郷名ノ内ニ白川田篭（タゴ）ナドアリ 又ノ所ニ
モ 地名ニ佛寺ノ山等ナドニモノコリ在ルヨシニ
新潟県ニ在ル村名ニ類似ノ地 田子（ダコ）関係アリ 皆似タリシモ
今尚ホ

国立公文書館
National Archives of Japan